

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171800218		
法人名	株式会社ファミリー中部		
事業所名	グループホームファミリー		
所在地	岐阜県土岐市泉町定林寺962-76		
自己評価作成日	平成30年8月10日	評価結果市町村受理日	平成30年11月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kan=true&JigyosyoCd=2171800218-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成30年9月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な雰囲気と施設の中で、利用者様中心の楽しい生活を送れる場の提供と、スタッフとの信頼関係を高めつつ、思いや意思を受け入れ、気兼ねなく日々を過ごして頂くように支援する。笑顔・ゆっくり・傾聴・共感・情報公開の5大理念の実践に力を注ぎたい。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>古くからある建物を改修した、昔懐かしい雰囲気の事業所である。居室は空間をうまく利用した造りになっており、個性的な間取りである。2つのユニットの建物の間には中庭があり、利用者同士の集う場となっている。事業所の裏にはグラウンドがあり、散歩を兼ねて運動のできる場所として活用している。職員研修を充実させるため、年間計画を立て、全職員が受講できるように工夫している。また、研修講師も務める介護支援専門員を中心に、職員の育成に力を入れながら、改めて介護とは何かを考え、業務改善及び利用者サービスの向上に繋げている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の業務の中で職員に意識づけして周知してもらうように努めています。	玄関に理念を掲げ、全職員で共有している。理念は実践に直結するものであるとの意識を持ち、解りやすい言葉を用いた5大理念があり、日々の利用者ケアの中で、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の周辺に民家が少なく工場が立ち並んでいるため、挨拶程度のお付き合いになっています。運営者または。管理者が町内の活動に参加するよう努めています。	周辺には民家が少ないが、隣接する工場の従業員とは挨拶を交わすことがある。自治会に加入しており、回覧版等で行事を確認しながら、町内のイベントに見学に行き、地域住民と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1度の運営推進会議で、ご家族代表、民生委員、行政の方々に情報の発信や収集を、お願いしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族代表の方や地域の住民からの苦情や提案・要望など聞き入れ、解決もしくは、アイデアなどをサービスの向上に反映している。	運営推進会議に、多くの家族が出席できるよう、家族にアンケートをとって日程を決めている。会議の中では様々な意見があり、それらを真摯に受け止めて対応し、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護支援専門員や管理者などが市役所介護保険課や福祉課などに月に2～3回ほど出向き営業や情報交換を行っています。	運営推進会議の開催が休日であっても、行政担当者の出席を得ることができており、事業所の状況報告、地域の情報など意見交換している。電話や窓口でも、いつでも相談が出来る関係性が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについての講習や社内研修など実施して職員全員に周知徹底するようにしている。また、玄関の施錠も夜間帯以外はしないように努めています。	運営推進会議の中でも、身体拘束廃止に向けた委員会を開催し、議事録を回覧して全職員で内容を共有している。また、身体拘束をしないケアについて、研修でも学んでいる。利用者の安全のため、止むを得ずベッド柵を使用する時は、家族の承諾を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修機関に依頼して社内で業務終了後に虐待防止についての勉強会など行いどういったことが虐待にあたるかなど理解を広めています。		

岐阜県 グループホーム ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を利用している方もみえそれについての勉強会も行い必要性の出てきた利用者に対し活用性についてご家族代表と話し合いの場を持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に重要事項説明書と合わせて十分説明し特に入所の条件退所の条件また料金が別途必要なものについても理解、納得して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設の玄関口に苦情相談箱を設置し苦情・要望があった場合は苦情相談窓口から苦情相談解決者に連絡し早急に対応できるよう対応している。	家族の意見や要望は、面会時や電話で聞き、利用者には、日々の支援の中で聞いたり、介護相談員を通して思いを聞くこともある。出された要望は、職員間で共有し、話し合いながら検討して改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	以前は、月に1回程度のユニット会議を実施していましたが、最近では行えていないのが現状です。	研修を充実させている反面、職員会議を開く時間が、上手く確保できていない状況である。職員の意見は管理者が個々に聞き、連絡ノートに記入して全体で共有している。有給休暇を取りやすいようにシフトを工夫している。	研修で職員が集まる日を利用して、職員会議を開催し、意見を聞く機会を設け、会議の中で話し合いながら、より良い業務体制に繋がることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善手当など優良な職員には手当のプラス査定を行い給料アップにつながるようにしています。また年に2回くらい慰労会を開催し職場の雰囲気がよくなるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社の意向で資格の取得などには支援したり費用も一部負担し積極的に後押しできるようにサポートしている。また研修機関との契約で2回に分けているような研修を行いどちらかの研修に出られるように工夫している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の会合や病院などの連携会などの勉強会に出席した際に名刺交換や意見交換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所や契約の前に入院先や在宅に出向き看護師やご家族もしくは直接本人から希望・要望・趣味・好みなどを傾聴し今後の支援に反映させています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から入所の申し込みがあった場合まず見学に来ていただき入所申込書に記入して頂く際に不安なことや要望またはご本人の状況の把握に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援専門員や主治医の先生とも連携を密にして入所に関する情報を多く集め見極めを図るようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様の尊厳を重んじ人生の大先輩として敬い経験から学ばれたことなど学べる関係を築いております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎年の恒例行事となりつつあるホームの花見や花火大会・秋祭り・クリスマス会・誕生会など家族の方々にも参加を呼び掛けております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部の利用者様に限られているのが現状です。高齢で日常生活動作の低下によりお出かけの困難な方もみえますが面会とか推進会議などの機会に会ってお話をさせていただいております。	面会時間の制限は設けておらず、気軽に訪問できる環境にある。家族や友人の来訪があり、居室で楽しい時間を過ごせるよう配慮している。また、携帯電話で友達と連絡を取り合っている利用者もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホームの居間にてテーブルに座られる席はなるべく気の合った者同士で座っていただいております。利用者同士で支えあい、助け合いの精神に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	情報提供書やアセスメントシートなどを転居先の関係機関に提供し関係を引き継いでおります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の個性を活かせるよう個別ケアに努めケアプランも本人の希望に添えるよう検討しております。	日常会話の中で、利用者の思いや意向を把握している。また、趣味を活かせるようなレクリエーションや、日々の過ごし方について、様々な提案をし、利用者一人ひとりが、毎日を有意義に過ごせるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族の方から生活歴・既往歴・好きな物、嫌いなものなどを詳しく聞き、介護サマリー、看護サマリーも参考にしてサービスに活かしていきます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全てのスタッフが、毎日の介護記録、体調チェック表、連絡帳に目を通し体調の変化や介護への支援につながるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーとスタッフの間で利用者様や家族の希望、要望などを話し合い訪看さん・主治医の意見も聞きながら作成して家族に郵送して一部捺印して頂き返送してもらっています。	本人・家族の意見、職員や介護記録から得られる情報を加味して介護計画を作成している。事業所本位の計画作りにならないよう、文書だけではなく、家族との面談や電話で、意見を聞く機会を設けるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の気が付いた事や出来事などをそのままの事ばで細かく記録しスタッフ間で共有しながら見直しに努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設している姉妹会社の有料老人ホームなどと連携を取りながら柔軟に対応しております。		

岐阜県 グループホーム ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ごく一部の利用者様に限られているのが現状です。庭の草取りや花壇の手入れなど出来る方はやられています。また、月に一度市の相談員さん2名来所して頂き話し相手や相談相手として支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院の主治医に月に2回の往診をお願いし、健康管理と薬の処方をしていただき、また認定調査に必要な医師の意見書の記入などの支援を行っています。	かかりつけ医の選択は、本人・家族の希望を優先している。通院は家族が同行するが、必要に応じて管理者が同行し、利用者の状況を医師に伝えることもある。受診前後の情報は家族と共有し、適切な医療が受けられるように取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様が急な異常が見られた場合は、昼夜を問わず看護師と連携をとり指示を仰ぎ対応にあたるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	総合病院などの場合は相談員やケースワーカー、担当看護師と連携を密にとり早期退院につながるように努めております。また、直接ご本人に面会し状態を把握する事もあります。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	実際には終末期ケアは行っていませんが、ご家族と本人の意向にて救急対応を前提にホームで最後を送れるように支援しております。	契約時に、看取りを行わない方針を本人・家族に説明し、理解を得ている。重度化や医療処置が必要になる時には、早い段階から家族と話し合い、事業所として、できる限りの支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救命救急の研修と研修機関による救命救急の講習会に参加し全スタッフに周知徹底させております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	春と秋の年2回の避難訓練、消火訓練を行い積極的に職員に防火管理者講習にも参加してもらっております。	消防署立ち合いでの訓練は実施していないが、セキュリティ会社の協力のもと、訓練や設備点検を行っている。改善点があった場合は、その都度対応し、実地訓練や改善報告をしながら、消防署と連携している。	近隣からの協力が得られるように、運営推進会議で行政や民生委員の意見を聞き、安全確保に向けた取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であるという思いで接し特にトイレ介助・入浴介助などの同性介助が勤務のシフトの関係上、困難であるため言葉かけに気を付け異性介助に不安がないよう努めております。	馴れ合いから生じる言葉遣いや対応を行わないよう、職員間で、互いに注意し合うよう努めている。接遇研修を全職員が受講し、適切なケアを実践している。管理者も、気になる時は、その都度職員に声をかけ、改善するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの会話の中で利用者様の希望や要望とか傾聴し出来る範囲で支援するよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	シフトや時間割の関係で希望に添えない場合もありますが、できる限り利用者様の立場に立って支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の希望最優先にし、そのために必要な物があれば購入したり、または、ご家族に依頼してお持ち願っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人個人の好き嫌いを把握して毎日の献立作成に活かすようにしています。また、誕生日などの日は特別メニューでお祝いさせていただきます。職員と一緒に準備、後片づけに関しては日常生活動作の低下などにより困難な場合もあります。	利用者の要望も取り入れながらメニューを決め、3食共、手作り食を提供している。利用者同士で食卓を囲み、会話を楽しみながら食事をしている。次の食事のメニューもホワイトボードに記載し、食べる楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月実施の体重測定や毎日の介護記録、バイタルチェック表を参考にして食べる量・栄養バランスを考えています。また、水分摂取には特に気を付けております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様に対して朝・夕2回食後に口腔ケアを実施し、自分で行えない方はお手伝いしています。また、義歯の方には入歯洗浄剤で一晩漬け置き洗いをしています。		

岐阜県 グループホーム ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の介護記録などで排泄リズムをつかみ定期的にトイレ誘導や、夜間のポータブルトイレで出来るように支援しています。	個々の排泄パターンに合わせて誘導を行い、トイレでの排泄を基本とした支援をしている。職員は、パッドやおむつについての研修で、構造や使い方の工夫を学び、利用者の排泄用品装着時のストレスが減るよう取り組んでいる。また、時間帯で使い分け、本人の負担費用の軽減にもつなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の個人記録の中の排泄記録をチェックして水分や果物などの提供や簡単な体操を働きかけている。また、頑固な便秘に関しては主治医の先生や看護師に相談したり便秘薬の処方なども依頼している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は日曜日以外毎日入れる体制をとっていますので、週3回の入浴ですが、体調に合わせて次の日に入ることも可能です。ただし時間帯はシフトの関係上決まっているのが現状です。	複数介助での安心・安全な入浴支援や、菖蒲、ゆず、入浴剤などで季節の湯をゆっくり楽しめるよう工夫している。同性介助を希望する利用者には、入浴日や、職員シフトを変更するなど、柔軟な対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中などでも体調のすぐれない方や足の浮腫のひどい方は、居室にて横になって頂くよう声かけしています。また、不安で夜間寝付かれない利用者様には主治医に相談し眠剤を服用してもらっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報やお薬説明シートで職員全員に周知し、症状の変化に関しては、月2回の往診時に主治医に報告して指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員は難しいが一部の利用者様に簡単な作業や役割分担を持っていただきやりがいを見出していただいています。また、趣味や得意な事をレクに取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一部の利用者に限られているのが現状である。ドライブ・買い物など行かれる方は3割程度にとどまっている。	日常的に庭での日光浴や、近くのグラウンドまで散歩に行っている。個別にドライブや買い物、喫茶店への外出支援もしている。家族の協力で墓参りに行くこともある。	

岐阜県 グループホーム ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、金銭管理はホームで行わないが家族の了解を得ている利用者様に限り個人にて管理されている。できない利用者様に関しては買い物など職員が代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様本人から要望がある場合は行えるように対応している。一部の利用者様は、携帯電話が使われている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間のテーブルなどに季節の草花を飾ったり利用者様の書かれた絵や塗り絵なども廊下や居間に飾って生活感を出している。共用スペースなどには、消臭剤や芳香剤を使っている。	利用者の作品や、職員が用意した季節の花を飾って季節感を出している。共有空間が広くないため、ソファなどは置いていないが、食卓テーブルの自分の席が寛ぎの場となっている。温湿度計で確認しながら心地よく過ごせるよう、適切に空調管理をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルの席など気の合う者同士が座れるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の方の協力も得てご自宅にあった家具や使い慣れたものなど持参してもらっています。居室のレイアウトに関しても利用者様の要望に応えるよう対応しています。	利用者は、馴染みのタンスやイスを持ち込み、配置は本人や家族と相談して決めている。また、家族の写真や自作の塗り絵を飾り、安らげる部屋になるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり設置等、転倒防止に配慮しながら本人の日常生活動作に合った空間づくりに努めている。		